

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①: 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学選抜の基本方針などの入学受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、公表、周知されているか。

【観点到る状況】

本学の目的に沿って、「大学が求める学生像」(資料 4-1-①-A) 及び各学部の学科、課程並びに大学院研究科の専攻、専修ごとに「求める学生像及び入学選抜方針」(アドミッション・ポリシー) を定め (資料 4-1-①-B~C)、本学入試情報ウェブサイト (参照資料 4-1-①-ア) に掲載し、学内外に公表、周知している。また、入学選抜要項、学生募集要項 (参照資料 4-1-①-イ~エ) や大学案内、入学案内 CD-ROM 等にも記載し、高等学校、短期大学、高等専門学校等、本学志願者、文部科学省、本学教職員等に配布している (別添資料 4-1-①-1)。

さらに、オープンキャンパス (大学説明会) 及び各高等学校 (平成 20 年度、延べ 60 校) に出向いての「ジョイントセミナー」、「佐賀県高等学校長との連絡会」、「高等学校進路指導教員との連絡協議会」(佐賀、長崎、北九州)、「九州地区国立大学との合同進学説明会」(東京、広島、福岡) や、佐賀県及び近隣各県の高等学校へ学長等が出向き大学紹介を行う際にも周知している (別添資料 4-1-①-2~5)。

なお、平成 20 年度のオープンキャンパス、ジョイントセミナー参加者はそれぞれ 4,251 人、7,661 人におよび (資料 4-1-①-D)、また、程度の差はあるものの、入学のうち 7 割程度がアドミッション・ポリシーを理解している (資料 4-1-①-E)。

資料 4-1-①-A: アドミッション・ポリシー

□ 佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

(出典：佐賀大学入試情報 学部のアドミッションポリシー ウェブページ
(http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Gakubu_Nyusi/Gakubu_ap.html))

資料 4-1-①-B: 学部のアドミッション・ポリシー (部局例示・医学部医学科)

<求める学生像>

本医学科の教育課程を通して目的に沿った人材を育成するために、次のような学生を求めます。

1. 医学への志を持ち、医学・医療により社会に貢献したいと考える人
2. 他者への思いやりを持ち、コミュニケーションを取ることができる人
3. 学習と医療の研鑽を努力・持続するための忍耐強さを持つ人
4. 本医学科の教育課程で学ぶために必要な学力・能力を備えた人

<入学選抜の基本方針>

入学選抜の「公平性・多様性および評価尺度の多面性」を理念として、次の基本方針に基づき選抜を行います。

1. 求める学生像に沿った多彩な人材を得るために、多様な選抜方法を実施します。
2. 本医学科の教育課程で学ぶために必要な学力・能力を問う試験を行います。
3. 医学を学ぶ意欲や医療職者になるための適性を問う試験を行います。

4. 学力・能力のみならず意欲・適性等を重視した総合評価により選抜を行います。

(出典：佐賀大学入試情報 学部のアドミッションポリシー ウェブページ
(http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Gakubu_Nyusi/Gakubu_ap.html))

資料 4-1-①-C： 大学院アドミッション・ポリシー（部局例示・医学系研究科博士課程医科学専攻）

＜求める学生像＞

博士課程医科学専攻では次のような人を求めています。

1. 医学・歯学等の6年制学部卒業で、医学・医療の分野で、研究者あるいは高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人
2. 医学系修士課程あるいはその他の修士課程修了者で、医学系研究科博士課程と合わせて研究者を志す人
3. 学習と研鑽を努力・持続するための忍耐強さを持つ人
4. 博士課程での教育プログラムを学ぶために必要な学力・能力を備えた人

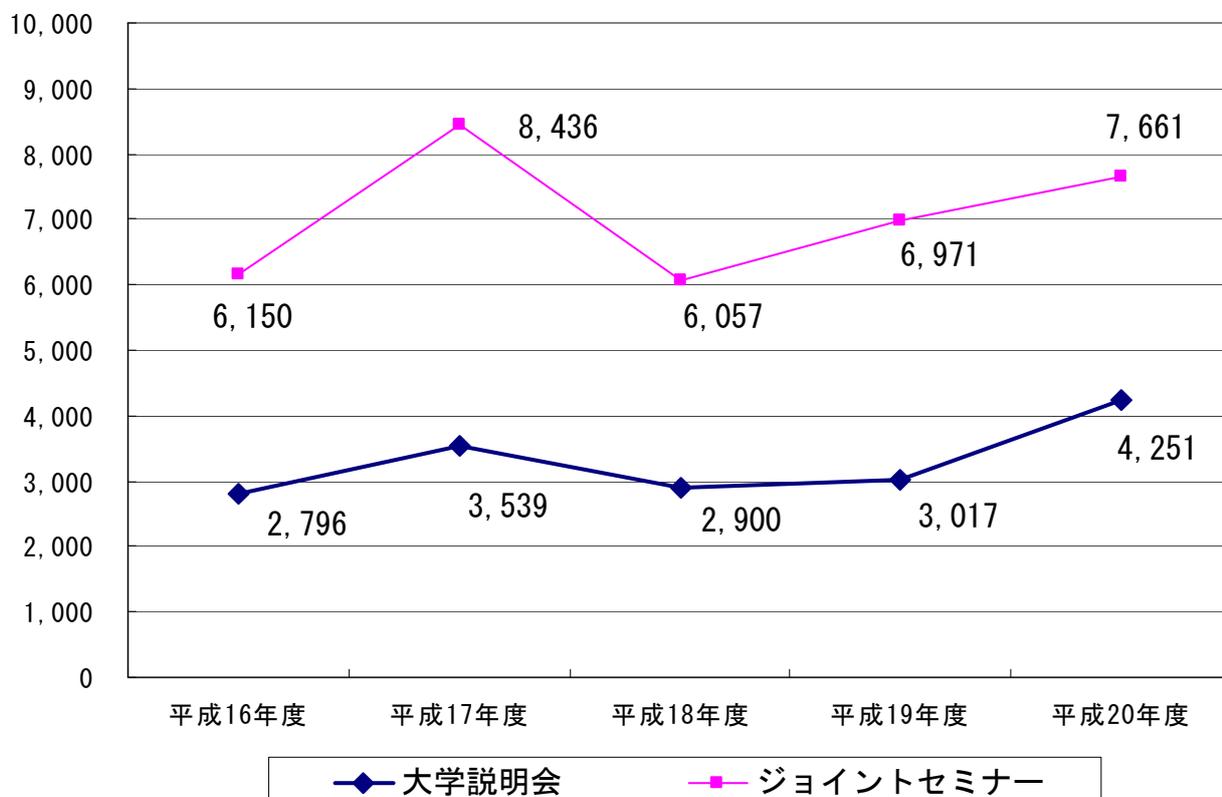
＜入学者選抜の基本方針＞

入学者選抜の「公平性・多様性および評価尺度の多面性」を理念として、次の基本方針に基づき選抜を行います。

1. 求める学生像に沿った多彩な人材を得るために、医学科や医学系修士課程等を卒業・修了したものに加えて、社会人、留学生を積極的に受け入れます。
2. 本課程での教育・研究指導プログラムを学ぶために必要な学力・能力を問う試験を行います。
3. 学力・能力のみならず意欲・適性等を重視した総合評価により選抜を行います。

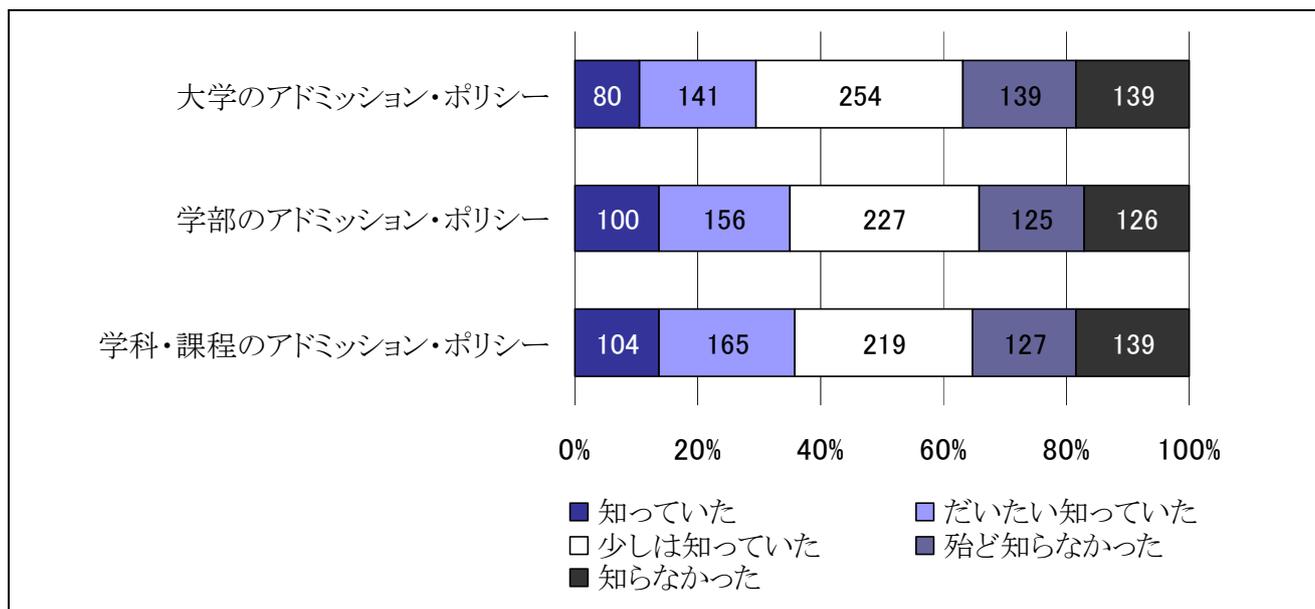
(出典：佐賀大学入試情報 大学院のアドミッションポリシー ウェブページ
(http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Daigakuin/Daigakuin_ap.html))

資料 4-1-①-D： オープンキャンパス、ジョイントセミナーへの参加状況 (単位：人)



(出典：アドミッションセンター資料)

資料 4-1-①-E: アドミッション・ポリシーに対する入学者の理解度 (5件法)



(出典：アドミッションセンター「佐賀大学入学者の進路選択に関するアンケート（平成20年度）」より作成)

別添資料 4-1-①-1：平成21年度入学者選抜要項，大学案内及び入学案内CD-ROMの配布先，配布数

別添資料 4-1-①-2：佐賀大学と高等学校長との連絡会 議事次第

別添資料 4-1-①-3：佐賀大学入学者選抜試験に関する高等学校との連絡協議会 議事次第

別添資料 4-1-①-4：九州地区国立大学合同説明会 ポスター

別添資料 4-1-①-5：平成20年度ジョイントセミナー実施一覧

参照資料 4-1-①-ア：佐賀大学入試情報 ウェブサイト (<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>)

参照資料 4-1-①-イ：平成22年度佐賀大学入学者選抜要項【7月1日公表：訪問調査時に開示】

(参考 入試情報ウェブサイト (<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>) に掲載予定)

参照資料 4-1-①-ウ：平成22年度3年次編入学学生募集要項

(http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Hen_Nyugaku/h22hennyu.pdf) (文教, 理工, 農)

(<https://www.gab.med.saga-u.ac.jp/nyusi/22nyushi/3nenjihennyuu22.pdf>) (医 (看護))

参照資料 4-1-①-エ：平成22年度大学院学生募集要項 (教育学, 経済学, 工学系, 農学),

平成21年度大学院学生募集要項 (医学系)【平成22年度要項は7月上旬公表】

(http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Daigakuin/Seikyu_Hoho_Daigakuin.html)

【分析結果とその根拠理由】

上記のように、各学部の学科・課程及び研究科の専攻ごとに、求める学生像及び入学者選抜の基本方針を定め、「アドミッション・ポリシー」として入試情報ウェブサイトや選抜要項等により公表するとともに、オープンキャンパスや高等学校でのジョイントセミナー及び各種の進学説明会等でも周知している。特に、オープンキャンパス、ジョイントセミナー等の参加人数を考慮すると、進学希望者への周知の程度は大きく、入学者のうち7割程度がアドミッション・ポリシーを理解していることから、「求める学生像及び入学者選抜方針」の公表、周知の効果が現われていると考えられる。

観点4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実質的に機能しているか。

【観点に係る状況】

学士課程においては、各学科・課程のアドミッション・ポリシーに沿って、一般選抜（前期、後期日程）、特別選抜（推薦入学、帰国子女、社会人、佐賀県推薦入試、AO入試）、私費外国人留学生選抜及び3年次編入学（一般選抜、推薦入学、外国人留学生特別選抜）により、多様な入学者選抜を実施している（参照資料4-2-①-ア）。

一般選抜では、学科・課程の求める人材像に応じた大学入試センター試験科目及び個別学力検査等の成績、面接、調査書等によって選抜している。実施に当たっては、「学力検査の科目で1科目でも基準点以下がある場合は不合格とする」（農学部）、「面接を総合判定の重要な資料とするとともに、評価が低い場合は不合格とすることがある」（医学部）と選抜要項に明示するなど、選抜方法を実質的に機能させている。

特別選抜の推薦入学では、小論文、面接、実技検査、調査書、活動歴等報告書等による、科目試験のみでは評価しにくい能力や熱意等を問う選抜を行っており、医学部医学科においては、佐賀県内の高等学校卒業見込者を対象とする地域枠の設定や佐賀県推薦入試（別添資料4-2-①-1）を行い、佐賀県の医療に貢献する人材の受入を図っている。また、平成21年度入学者選抜から、文化教育学部（音楽選修、健康福祉・スポーツ選修（スポーツ分野））でAO入試を導入し、調査書、自己推薦書、小論文、面接、実技検査等を総合して選抜している。

大学院課程においては、各専攻のアドミッション・ポリシーに沿って、一般選抜、社会人特別選抜、推薦による選抜、外国人留学生特別選抜、現職教員等の選抜を実施しており、それぞれの選抜に応じて、学力検査（外国語科目、専門科目）、面接、口述試問及び書類審査等を適切に組み合わせ、総合判定を行っている（参照資料4-2-①-イ）。

別添資料4-2-①-1：平成21年度佐賀大学医学部医学科佐賀県推薦入学特別選抜学生募集要項 [佐賀県による第一次選考]

参照資料4-2-①-ア：平成22年度佐賀大学入学者選抜要項【7月1日公表：訪問調査時に開示】
（参考 入試情報ウェブサイト（<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>）に掲載予定）

参照資料4-2-①-イ：平成22年度大学院学生募集要項（教育学、経済学、工学系、農学）、
平成21年度大学院学生募集要項（医学系）【平成22年度要項は7月上旬公表】
（http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Daigakuin/Seikyu_Hoho.Daigakuin.html）

【分析結果とその根拠理由】

学士課程の学生の受入は、アドミッション・ポリシーに沿って、一般選抜のほか、推薦入学、AO入試等の特別選抜といった多様な入学者選抜方法を採用しており、それぞれの選抜方法に応じて適切な試験科目等を課している。特に、特別選抜においては、小論文、面接、実技検査、調査書、活動歴等報告書等により、科目試験のみでは評価しにくい能力や熱意等を問う選抜を行い、各学科等の求める学生像に沿った多様な学生の受入に機能している。また、学力検査や面接の評価において、基準点以下の場合には不合格とするなど、選抜方法が実質的に機能している。大学院課程の学生の受入についても、アドミッション・ポリシーに沿って、上記のように多様な方法を採用しており、様々な能力のある学生の受入に機能している。

観点4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）において、留学生、社会人、編入学生の受入等に関する基本方針を示している場合には、これに応じた適切な対応が講じられているか。

【観点に係る状況】

本学では、学士課程と大学院課程において、外国人特別選抜、社会人特別選抜を実施している。また、学士課程では3年次編入学を実施している。

3年次編入学では、高等専門学校や短期大学又は専修学校などの卒業生を対象に、一般選抜（学科・課程の特性に応じた学力検査等の成績、面接、調査書等によって選抜）及び推薦入学（推薦書、小論文、面接、調査書等によって選抜）により受け入れている（参照資料4-2-②-7）。

社会人特別選抜では、学士及び大学院課程ともに、総合問題や面接、志願理由書等により、社会人としての経験を加味した能力等を問う選抜を行っている（参照資料4-2-②-1〜9）。

外国人留学生に対して、学士課程では、大学入試センター試験を免除し、成績証明書、日本留学試験やTOEFLの成績及び面接等の学力検査の併用による選抜を行い、大学院課程では、志望理由書、学力検査（英語、基礎、専門科目等）、口頭試問、推薦書等により総合判定している（参照資料4-2-②-1〜9【再掲】）。

また、秋季入学制度（10月入学）を、次のとおり実施しており（資料4-2-②-A、参照資料4-2-②-10）、「戦略的国際人材育成プログラム」及び「地球環境科学特別コース」の学生募集要項には、英語によるアドミッション・ポリシーを掲載している（別添資料4-2-②-1、参照資料4-2-②-10〜11）。

資料4-2-②-A： 秋季入学制度（10月入学を実施している研究科）

研究科名	課程	対象
工学系研究科	博士後期課程	一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜（全専攻） 戦略的国際人材育成プログラム（全専攻） 地球環境科学特別コース（生体機能システム制御工学専攻）
	博士前期課程	地球環境科学特別コース（機能物質化学、機械システム工学、電気電子工学、都市工学、循環物質工学の各専攻）
農学研究科	修士課程	地球環境科学特別コース（全専攻）

（出典：事務局資料）

別添資料4-2-②-1：地球環境科学特別コース学生募集要項

博士前期課程（在外・2009年10月入学）、博士後期課程（在外・2009年10月入学）

参照資料4-2-②-7：平成22年度3年次編入学学生募集要項

（http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Hen_Nyugaku/h22hennyu.pdf）（文教、理工、農）

（<https://www.gab.med.saga-u.ac.jp/nyusi/22nyushi/3nenjihennyuu22.pdf>）（医（看護））

参照資料4-2-②-10：平成22年度佐賀大学入学者選抜要項【7月1日公表：訪問調査時に開示】

（参考 入試情報ウェブサイト（<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>）に掲載予定）

参照資料4-2-②-11：平成22年度大学院学生募集要項（教育学、経済学、工学系、農学）、

平成21年度大学院学生募集要項（医学系）【平成22年度要項は7月上旬公表】

（http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Daigakuin/Seikyu_Hoho.Daigakuin.html）

参照資料4-2-②-12：大学院入試日程（http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Daigakuin/Daigakuin_nittei.html）

参照資料4-2-②-13：地球環境科学特別コース学生募集要項

博士前期課程（在日・2009年10月入学）

（http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Daigakuin/Tokubetu_Corse/2009/2009MasterZainiti.pdf）

博士後期課程（在日・2009年10月入学）

（http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Daigakuin/Tokubetu_Corse/2009/2009DoctorZainiti.pdf）

参照資料4-2-②-14：戦略的国際人材育成プログラム学生募集要項

（http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Daigakuin/Tokubetu_Corse/2009/2009Doctor_SIP0P.pdf）

【分析結果とその根拠理由】

外国人留学生，社会人に対しては，外国人特別選抜，社会人特別選抜を実施し，編入学の希望者に対しては 3 年次編入学を実施している。上記のように，それぞれの選抜の方針に沿った方法が採られており，特に，外国人留学生を対象とした秋季入学制度（10 月入学）を実施するなど，適切な対応を講じている。

観点 4-2-③： 実際の入学者選抜が適切な実施体制により，公正に実施されているか。

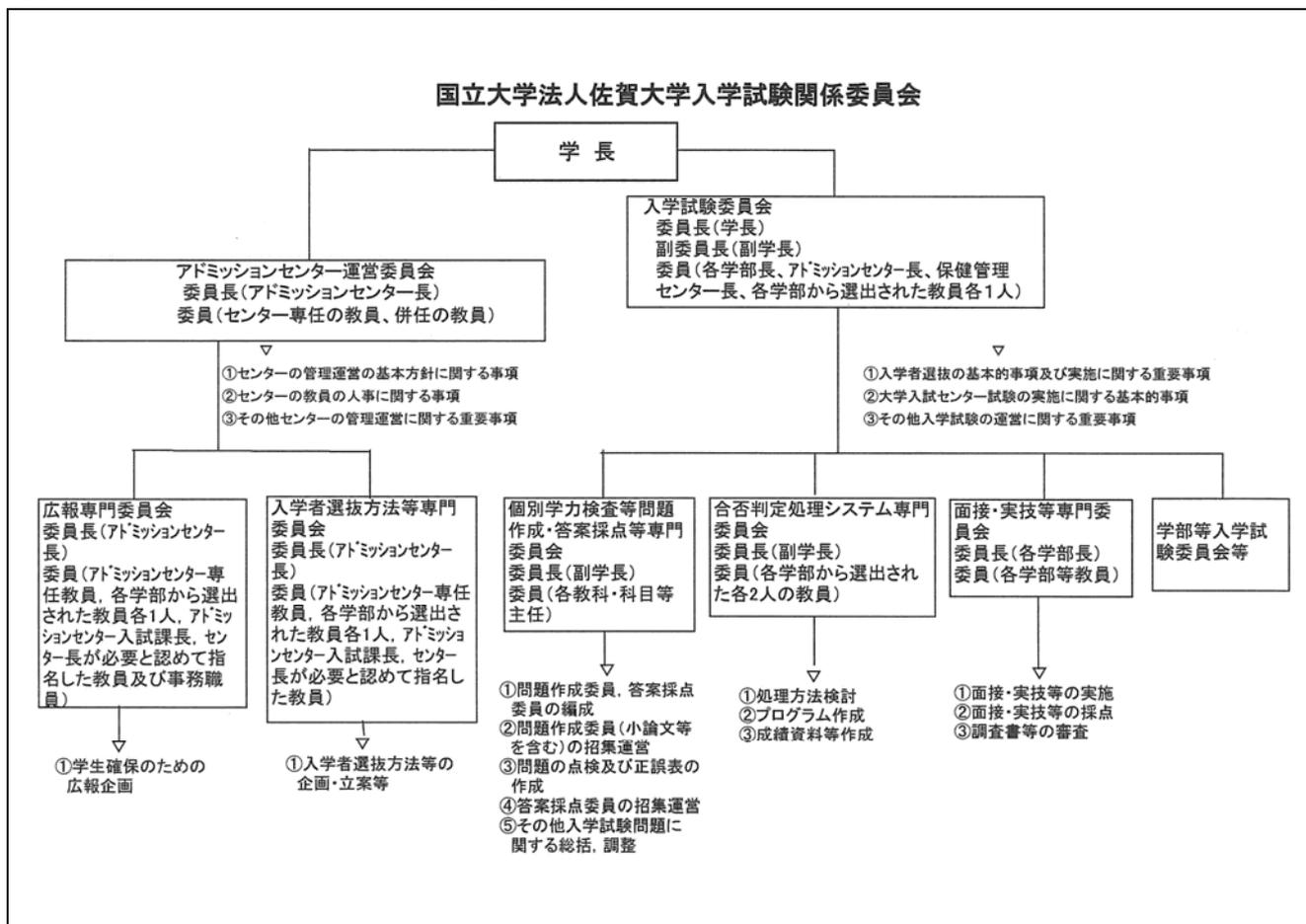
【観点到に係る状況】

入学者選抜の実施・運営は，下記の「入学試験関係委員会組織図」（資料 4-2-③-A）に示すように，入学試験委員会が掌理し，(1)入学者選抜の基本的事項及び実施に関する重要事項，(2)大学入試センター試験の実施に関する基本的事項，(3)入学試験の運営に関する重要事項を審議している。入学者選抜方法等の企画・立案等については，アドミッションセンターの入学者選抜方法等専門委員会で審議している（参照資料 4-2-③-7）。試験問題の作成や合否判定の資料作成等は，入学試験委員会の下に置かれた各専門委員会が行っている。これらは，非公開を旨とし，かつ，特別選抜や面接・実技等，各学部・研究科の固有のものを除いて，全学的な組織体制により処理することで，公正な実施を図っている（参照資料 4-2-③-1）。

学士課程において入学者選抜を実施する際は，学長を本部長とする入学試験実施本部を設置し，各試験場に試験場本部を置き，学部長を責任者として円滑・公正に実施している（別添資料 4-2-③-1）。合否判定は，入学試験委員会の下に置かれた専門委員会が作成した資料に基づいて，教授会の議により行っている。

大学院課程の入学者選抜の実施についても，各研究科において，研究科長を総括責任者とし，各実施責任者や担当委員等を定めた体制により，円滑・公正に実施している。合否判定は，研究科ごとに担当の委員会が作成した資料に基づいて，研究科委員会の議により行っている（別添資料 4-2-③-2）。

資料 4-2-③-A : 入学試験関係委員会組織図



(出典：アドミッションセンター資料)

別添資料 4-2-③-1：入学試験実施組織表

別添資料 4-2-③-2：大学院入学試験等実施組織図 (概要)

参照資料 4-2-③-ア：佐賀大学入学者選抜規則 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/kanri/nyusi.htm>)

参照資料 4-2-③-イ：佐賀大学入学試験専門委員会細則 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/kanri/nyusisaisoku.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

学長を委員長とする入学試験委員会を中心として、入学者選抜に係る重要事項等を審議し、その下に置かれた各専門委員会が各部局の入試委員会と連携して学力検査等の問題作成から判定資料作成までの業務を分掌しており、また、入学者選抜の実施においても、入学試験実施本部及び試験場本部からなる全学的な体制で行っている。合否判定は、学部教授会、研究科委員会において厳正に実施されていることから、実施体制及び実施内容の両面から、公正性が確保されている。

観点 4-2-④： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。

【観点に係る状況】

アドミッションセンター運営委員会の下に入学者選抜方法等専門委員会を置き（資料 4-2-③-A【前掲】）、入学者選抜方法等に関する調査・研究を行い、個別学力検査等の内容及び在り方と改善方策を検討している。

また、佐賀県高等学校長との連絡会、高等学校進路指導教員との連絡協議会（佐賀、長崎、北九州）や、九州地区国立大学・高等学校連絡協議会において、高等学校側の入試に関する意見のフィードバックを図っている（別添資料 4-1-①-2～3【前掲】）。

入学者選抜について検証した結果は、①医学部医学科推薦入試において、平成 17 年度入試から地域枠を、平成 20 年度入試から佐賀県推薦入学特別選抜を導入、②医学部医学科のセンター試験の理科において、平成 18 年度入試から物理・化学・生物の 3 教科を課すことを実施、③経済学部及び医学部看護学科の推薦入試において、募集人員を平成 20 年度入試から改定、④文化教育学部において、AO入試を平成 21 年度入試から導入する等、入学者選抜の改善に役立っている。さらに、平成 20 年度入試から個別の入学試験問題について検証を行い、その結果を入学者選抜の改善に役立っている（別添資料 4-2-④-1～2）。

大学院課程においても、工学系研究科では、平成 19 年度入試から、これまでの志願者数の状況等を踏まえて博士前期課程の一部専攻の募集人員を改定するなど、入学者選抜の検証・改善に取り組んでいる。

別添資料 4-2-④-1：平成 20～21 年度入学者選抜要項の主な変更点等について
別添資料 4-2-④-2：検証作業 流れ・手順

【分析結果とその根拠理由】

学士課程においてはアドミッションセンター入学者選抜方法等専門委員会が中心となり、大学院課程においては各研究科が、入学者選抜方法に関する検証と改善策の検討に取り組み、上記のように入学者選抜方法の改善に活用している。

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【観点に係る状況】

学士課程の過去 5 年間（平成 17 年度～平成 21 年度）平均入学定員充足率で見ると、各学部とも 1.00 ～1.11 の範囲で学部単位では適正な状況にあり、学科等単位でも入学定員を下回ることは無く、概ね適正であるが、文化教育学部学校教育課程障害児教育選修（入学定員 9 人）において、平均充足率が 1.33 で入学定員を大幅に超える状況（充足率 1.3 以上）にある。入学定員が少ない募集単位においては、入学辞退者を想定しながら入学者数管理を行うのに困難を伴うが、入学志願者の動向分析を踏まえて適正化を図っており、平成 21 年度充足率は、2 人超過の 1.22 になっている。

大学院課程の充足率では、教育学研究科修士課程（入学定員 39 人）で平成 19 年度に大幅に超える状況になり、その原因となった教科教育専攻（入学定員 33 人）では、合格者数管理の見直し等の改善により平成 21 年度充足率 1.24 まで適正化を図って来たが、学校教育専攻（入学定員 6 人）では未だ大幅な超過（平成 21 年度充足率 1.83）があり、研究科の改組を視野にいれた入学定員の見直しを検討している。

経済学研究科修士課程（入学定員 8 人）は、平成 18, 19 年度に大幅に超えていたが、合格者数管理により平成 21 年度充足率 1.12 まで適正化を進めている。専攻別では、平成 21 年度入学者が企業経営専攻（入学定員 4 人）で 3 人超過、金融・経済政策専攻（入学定員 4 人）で 2 人の不足となっており、ここでも入学定員が少ない募集単位が抱える問題があり、打開策の検討を進めている。

医学系研究科修士課程看護学専攻（入学定員 16 人）と博士課程（入学定員 30 人）では、以前は入学定員を下回る状況にあったが、平成 18 年以降は社会人学生の積極的受入等の取組によって適正となっている。

工学系研究科博士前期課程（入学定員 186 人）では、各専攻の平均充足率が 0.97～1.23 の範囲にあり、概ね適正となっているが、数理科学専攻は入学定員充足率が極めて低い年度があることを考慮し、当該専攻の入学定員の見直しを含めた博士前期課程の改組計画を策定し、平成 22 年度の学生受入に向けて具体的準備を進めている。博士後期課程（入学定員 30 人）では、全体の平均充足率は 1.09 で適正であるが、システム生産科学専攻（入学定員 7 人）の平均充足率が 2.28 で大幅に上回り、生体機能システム制御工学専攻（入学定員 14 人）の平均充足率が 0.38 で大幅に下回る状況にあるため、入学定員数の見直しを含めた博士後期課程の改組計画を策定し、平成 22 年度の学生受入に向けて具体的準備を進めている（別添資料 4-3-①-1）。

農学研究科修士課程（入学定員 50 人）は、平均充足率では適正な状況といえるが、平成 21 年度充足率は 0.86 に下降しており、入学定員の削減を含めた研究科の改組計画を、平成 22 年度の学生受入を目指して進めている（別添資料 4-3-①-1【再掲】）。

別添資料 4-3-①-1：工学系研究科及び農学研究科の改組計画

【分析結果とその根拠理由】

上記のように、各学部の入学定員に対する実入学者数は、定員を下回るものは無く適正な状況になっており、入学志願者の動向を踏まえた合格者数の管理により適正化を図っている。大学院課程では、一部の専攻で定員充足率が大幅に上回る、又は下回る状況があるが、合格者数の管理とともに、工学系研究科及び農学研究科において入学定員の見直しを含めた改組計画を具体的に進めるなど、適正化を図る取組を行っている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 学科，課程，専攻など，募集単位ごとにアドミッション・ポリシーを定め，入試情報ウェブサイトや選抜要項等により公表するとともに，オープンキャンパスや高等学校でのジョイントセミナー及び各種の進学説明会等で周知を図っており，入学者のアンケート調査で公表，周知の効果が現われている。

【改善を要する点】

- 大学院の専攻で，入学定員の超過率が高いものが3専攻，充足率が低いものが1専攻あり，現在進行中の入学定員の見直しを含めた専攻再編等の研究科改組計画を遂行するとともに，入学志願者の動向を踏まえた合格者数管理を徹底していく必要がある。

(3) 基準4の自己評価の概要

求める学生像及び入学者選抜の基本方針を定め，「アドミッション・ポリシー」として入試情報ウェブサイトや選抜要項等により公表するとともに，オープンキャンパスや高等学校でのジョイントセミナー及び各種の進学説明会等で周知を図っており，入学者のうち7割程度がアドミッション・ポリシーを理解していることから，公表，周知の効果が現われている。

学士課程及び大学院課程における入学者選抜は，アドミッション・ポリシーに沿って，一般選抜，推薦入学，社会人特別選抜，外国人特別選抜，一部の学部におけるAO入試など，多様な入学者選抜を実施し，それぞれの選抜方法に応じて適切な学力検査科目や小論文，面接，実技検査，調査書等による選抜を行い，求める学生像に沿った学生の受入に機能している。外国人留学生，社会人については，それぞれの特別選抜の方針に沿った方法が採られており，特に，外国人留学生を対象とした秋季入学制度（10月入学）を実施するなど，適切な対応を講じている。

入学者選抜の実施体制は，学長を委員長とする入学試験委員会が中心となって，入学者選抜の実施に関する重要事項を審議し，試験問題の作成等の実務は，入学試験委員会に設置された専門委員会が各部局の入試委員会と連携して担当している。入学者選抜の実施においても，入学試験実施本部及び試験場本部からなる全学的な体制で公正に行っており，合否判定は，学部教授会，研究科委員会において厳正に実施されている。また，アドミッションセンター入学者選抜方法等専門委員会が中心となり，入学者選抜方法に関する検証と改善策の検討に取り組み，医学科における推薦入試の地域枠や佐賀県推薦入学特別選抜の導入，文化教育学部でのAO入試一部導入，推薦入試の募集人員数の改定，センター試験で課す科目の変更など，入学者選抜の改善策を講じている。

各学部の入学定員に対する実入学者数は，定員を下回るものは無く適正な状況になっており，入学志願者の動向を踏まえた合格者数の管理により適正化を図っている。大学院課程では，一部の専攻で定員充足率が大幅に上回る又は下回る状況があるが，合格者数の管理とともに，入学定員の見直しを含めた研究科の改組計画を具体的に進めるなど，適正化を図る取組を行っている。